

〔基本方針 3〕

広く情報を発信し、市民とともに成長する図書館（成長する） 積極的に情報を発信するとともに、市民・団体と連携した事業を展開していく -

「市民の生活や活動に役立つ図書館」「本・人・文化を結ぶ図書館」の機能を十分に発揮するには、社会の動きを察知しながら、図書館の様々な情報や魅力を、広く積極的に発信する必要があります。また、新しい時代にも対応できる、質の高いサービスを提供することが必要となることから、市民の参画や外部の団体等との連携を深めながら、効果的・効率的に事業を進め、「成長する」図書館を目指していきます。

〔施策の方向性〕

（ 1 ）積極的な情報発信

これまで札幌市図書館ビジョンに基づき、他の図書館にある図書を最寄りの図書館に取り寄せる、また、インターネットで予約する仕組みを構築するなどして、利便性を高め、利用も増加してきた
アンケート調査によると、そうしたサービスについて知らない市民が半数もいる。
市民の財産である図書をより多くの方々に利用していただけるよう、これまで以上に積極的に広報活動を行うなど、情報発信をしていく。

ホームページや広報刊行物の充実

図書館のサービス内容や魅力についてよく理解していただけるよう、ホームページをはじめ、「図書館利用案内」や「図書館だより」などの広報刊行物の内容の充実を図る。
目的の図書や資料を容易に探し出せるよう、調べ物によく利用される図書や資料をまとめたパスファインダーや図書を選ぶ際の参考となるブックリストなどをホームページ上で多数掲載するなど工夫をしていく。
外国人向けの利用案内についても内容の工夫を検討していく。

普及事業の充実

図書館を利用されたことがない方にも図書館に関心を持っていただけるよう、文化人や専門家などによる講演会や、社会の動きや市民の関心の高いテーマに関する展示など、普及事業に積極的に取り組んでいく。
その内容や時期などをより一層工夫して、普及事業の充実を図る。

（ 2 ）市民・団体等との連携促進

図書館は、新しい時代にも対応できるよう、社会環境や市民ニーズの変化も把握しながら、サービスの質的向上に努めていく必要がある。そのため、市民はもとより、有識者や関係団体等の意見や評価を、適時調査し、確認していく。
図書館のサービスを充実させていくには、財源面においても、情報量の面においても、図書館単独で行うことには限界があること、さらに、専門的な、そして高度な知識や情報を提供していくためには、専門的な情報やノウハウを持っている方々に、その能力を発揮していただくことが有効であるため、関係する機関やボランティア団体との連携をさらに図っていく。

満足度や評価についての調査の継続

図書館のあり方やサービスの改善に向けて、市民の満足度調査のほか、有識者や関係団体を交えた図書館協議会や懇談会を継続的に実施していく。
図書館の利用者から寄せられる意見や要望の分析を行うことにより、サービスの向上を図っていく。

関係機関やボランティア団体との連携拡大

これまで、専門的な知識やノウハウを持つ機関や団体と協働して、講演会や展示などを行ってきた。
今後も、新たな文化との出会いの場の充実に向け、幅広い分野のテーマについて行うことができるよう、連携する関係機関やボランティア団体の拡大を図っていく。

ボランティアの活躍の場の提供

これまで、本の読み聞かせや各種イベントなどで、ボランティア団体と連携した取組を行ってきた。
今後は、書架整理や利用案内、講演会や展示をはじめとした普及事業の運営などにおいて、ボランティアの活躍の場を提供していく。

（ 3 ）効率的・効果的な図書館運営

社会情勢や市民ニーズに対応して、図書館の量的、質的なサービスを充実させるために、施設・設備の改修を計画的に進めていくとともに、より効率的・効果的な運営方法や体制の検討を進めていく。
その際には、業務委託等、民間事業者が持つ能力・技術・人材等を活用することも視野に入れる。
経常的な経費の節減を不断に進めるとともに、市民からの寄付環境の醸成も含めた歳入の増加に努め、将来に渡って持続可能な図書館運営を図る。

都心にふさわしい図書館の検討

多様化する情報化社会に向けて図書館全体の機能やサービスを発揮できるよう、都心にふさわしい図書館については、その情報拠点の一つとして、高度なレファレンスサービス、印刷媒体と電子媒体のバランスなど、その機能や内容の検討を進めていく。
その際には、都心という場所であることから、他の施設との複合化が前提になると考えられ、複合する施設の機能や都心の特色を踏まえて他部局と調整していく。

施設・設備の改修及び書庫の増設

高齢者や障がいのある方が快適かつ安全に利用できるよう、また、今後のサービスの拡充に対応できるよう、施設・設備の改修を計画的に進めていく。
将来的な書庫のスペースの不足に対応するため、書庫の増設についても検討を進めていく。

民間活力導入の検討

各区民センター・地区センター図書室において、指定管理者制度による民間活力の導入を実施し、これまでサービスの維持向上を図ってきた。
中央図書館と地区図書館においても、物流システムについて、既に業務委託を行っている。
今後、本ビジョンに掲げるサービスの充実を図るうえで、民間活力導入の拡大について、その効果と弊害に十分配慮しながら、継続して導入の検討を行う。

図書、資料の充実に向けた寄付の促進

多様化、高度化していく市民からの資料要求に全て応えるためには、市立図書館の蔵書だけでは限界があるため、大学図書館等の図書館との相互貸借や、市民からの寄付の募集を行っており、今後も寄付の促進を図る。

職員の研修体制の充実

図書館職員として高度な知識・技術の蓄積を目指して、研修体制の構築やマニュアルの整備を進める。
特にレファレンス機能の向上のため、実務に即した研修カリキュラムを策定するとともに、専門的テーマの特別研修も必要に応じ開催する。